

第4回

SDGs Family conference

SDGs 家族会議 in FUKUOKA

笑顔あふれる未来のために何ができるだろう

報告書

2024年9月～12月

家族で福岡の未来を考え
行動につなげよう

わたしたちの生活をこのまま続けると地球はどうなるのでしょうか。
世の中の人々が安心して暮らすために、わたしたちができることは何でしょうか。

SDGs家族会議 in FUKUOKAは家族が持続可能な社会の実現について何ができるのかを
考え「アイデア」を発表する講座+ワークショップです。2024年度は17の目標が相互に関連
していることを理解するためのゲームやもの作りなどの体験、森で生きものにふれる野外
学習も実施しました。低学年の子どもも楽しく参加できるように、関わり方や体験内容につ
いて見直したことで、家族の連帯感が一層深まったようです。

家族は話し合い、他の参加者の意見を聞き、講師、ファシリテーター、サイエンスコミュニ
ケーター、学生サポーターのアドバイスを受けながら2030年の未来像を描きました。



もくじ

SDGs家族会議の目的 01

ごあいさつ 02

プログラム構成の考え方 03

SDGs家族会議の概要 04

参加者紹介：福岡の未来を一緒に考えていくメンバー 05

各回のようす：第1回 06

各回のようす：第2回 07

各回のようす：第3回 08

各回のようす：第4回 09

各回のようす：第5回・第6回 10

各回のようす：第7回最終発表会 11-14

各賞について／審査員 15

学生サポーターからひとこと 16

SDGs家族会議を終えて 17

事務局 18

ごあいさつ

地球の温暖化が進み、水害などの大規模災害が増えています。

このため温暖化の原因となる二酸化炭素のはい出を減らす努力が続けられています。

そのなかで、二酸化炭素のはい出を減らすには、教育・経済・生物多様性など、
多くの課題をいっしょに解決しなければならないことがわかりました。

そこでSDGsの17目標を達成するために知恵をしぼっています。

SDGs家族会議 in FUKUOKA2024では、小学生とその家族が一緒になって、
SDGsの目標達成に向かって、私たちに何ができるのかを考えました。

この報告書は参加者のみんなの学びの記録です。

参加者は、カードゲームを通じて、SDGsの17目標と身近な課題の関係について考えました。

さらに、九州大学伊都キャンパス生物多様性保全ゾーンを見学し、
開発と保全が両立できることを学びました。

また、プラスチックごみの問題、チョコレートの背景にある問題などについて3人の先生から学び、
学生サポーターからアドバイスを受けながら、自分達で調べ、考え、話しあって提案をまとめました。

とくに、一人ひとりができることを提案するために知恵をしぼりました。

発表会でみんなが提案してくれたアイデアはとても希望がもてる内容でした。

アイデアを出すだけでなく、まわりの人たちにプレゼンをするなど、
実際に行動したうえで発表会にのぞんだ家族が多いことに、とても感動しました。

この報告書で学びと提案をふりかえり、他の家族のとりくみにも学びながら、
みんなのアイデアを実行にうつし、協力の輪をひろげていきましょう。



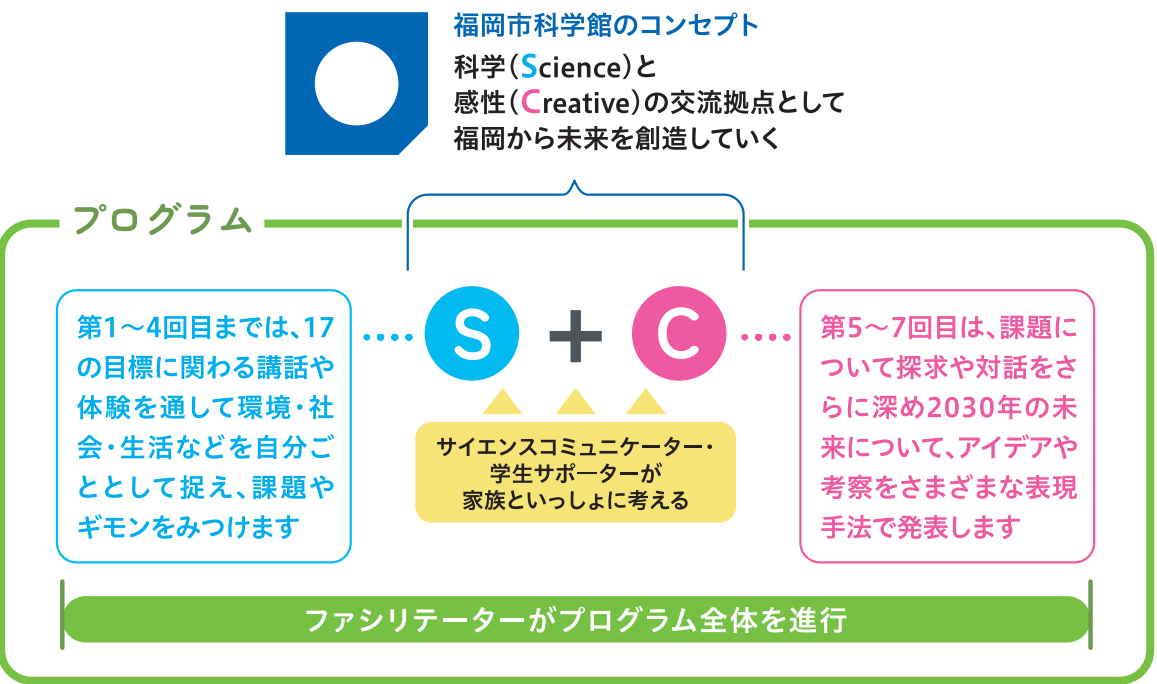
福岡市科学館館長 矢原徹一

プログラム構成の考え方

コンセプト

家族で福岡の未来を考え行動につなげよう

プログラムの構成



会議で大切にしたいこと

仲の良い家族でも、いざ「会議」を行うとなると結構難しいものです。

特にこの「SDGs家族会議」のように「社会課題を考える」ような場合、どうしても知識や経験が豊富な保護者が会議をリードしてしまい、子どもが自由に考え伝えることができなくなってしまう恐れがあります。

そこでこの会議では、7つの「大切にしたいこと」を設けて家族全員が意見を出せるように進行了しました。

- ① 最後まで話を聞く
- ② 否定や断定はしない
- ③ 考えは変わっていい
- ④ 答えはひとつではない
- ⑤ アイデアをつなげる
- ⑥ 「これでいい」より「これがいい」
- ⑦ 「べき」より「したい」

SDGs家族会議の概要

開催日程	2024年9月15日(日)～12月22日(日)全7回	申込方法	SDGsの何に興味があるかを書いて科学館ホームページから申込 選考のうえ、9月1日(日)までに応募者全員にメールで結果をご連絡
対象者	小学1年生～6年生を含む家族 ●持続可能な社会に興味・関心がある ●2030年の明るい未来を望んでいる ●家族で共通の目標を達成したい	申込受付期間	8月1日(木)正午 12:00～8月30日(金)23:59
		参加費	3,000円/1家族(交通費・材料費別途)

チーフファシリテーター 坂口麻衣子 講師リーダー 吉村友里

講師	矢原徹一 : 福岡市科学館館長、九州大学大学院理学研究院名誉教授 西村俊彦 : 福岡市科学館顧問、SDGs家族会議審査委員長 坂口麻衣子 : ワークショップユニット nina nino しばたみなみ : アーティスト／描いてつくるヒト 竹内太郎 : 九州オープンユニバーシティ学術研究員 吉村友里 : 九州大学理学部研究員、九州オープンユニバーシティ研究員
----	---

※敬称略、順不動

スケジュール

第1回	テーマ: SDGsとは何かを知る カードゲームで17の目標を知る 9月15日(日)10:00～12:00 場所: 福岡市科学館 交流室1 ファシリテーター: 坂口麻衣子	ワークショップ(クイズ、ゲーム)
第2回	テーマ: 身近な問題を考える 海洋ごみで作品を作ろう 9月29日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 講師: しばたみなみ ファシリテーター: 坂口麻衣子	講話+ワークショップ+対談+家族会議
第3回	テーマ: 開発と保全の成功例を知る 森で生きものにふれよう 10月14日(月・祝)10:00～13:30 場所: 九州大学伊都キャンパス 九大の森 講師: 矢原徹一 ファシリテーター: 坂口麻衣子	講話+フィールドワーク+SDGs弁当+ワークショップ
第4回	テーマ: 世界の子どもの幸せを考える チョコレートから考えよう 10月27日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 講師: 竹内太郎 ファシリテーター: 坂口麻衣子	講話+ゲーム+試食+家族会議
第5回	テーマ: 未来へ向けて今できることを考える 11月24日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 ファシリテーター: 坂口麻衣子	発表準備
第6回	テーマ: 未来へ向けて今できることを表現する 12月1日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 ファシリテーター: 坂口麻衣子	発表準備
第7回	テーマ: 最終発表会 12月22日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 ファシリテーター: 坂口麻衣子	最終発表会

※敬称略、順不同

福岡の未来を一緒に考えていくメンバー



8家族25名と8名の学生サポーターが
一緒になって考えます

KS家



SB家



KM家



MI家



TN家



KT家



RT家

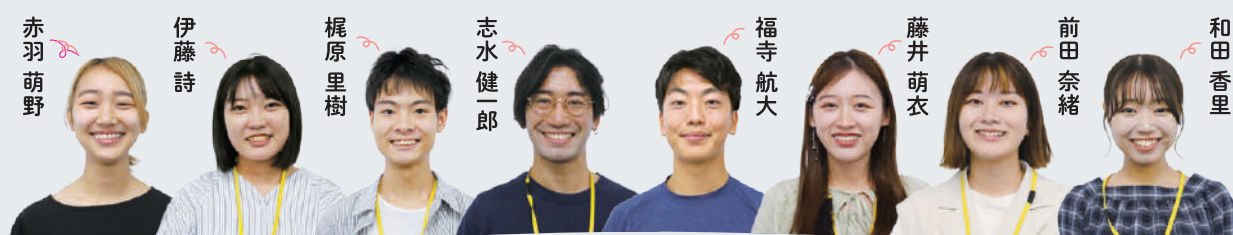


MB家



※順不同

学生サポーター



※五十音順

第1回

SDGsってなん
だろう？
クイズとゲーム
で17の目標を
知ろう！

「SDGsは国や企業など大きな組織が取り組むもの」というイメージがあり、私たちの生活とどう関わっているかが分かりにくいという問題があります。そこで、第1回ではクイズや福岡市科学館オリジナルカードゲームを通して、SDGsを身近に感じるきっかけづくりを行いました。

参加した8家族は、最初は緊張感でしたが、家族で話し合い、他の家族の意見も聞きながら意見をまとめていくことで次第に打ち解けていきました。今回学んだことが、第2回、3回へもつながっていきますよ。さあ、このメンバーで福岡の未来を考えていきましょう！

第1回
SDGsとは何かを知る
カードゲームで17の目標を知る

- ▶ 2024年9月15日(日)
- ▶ 10:00～12:00
- ▶ 福岡市科学館 交流室1
- ▶ 内容
 - ①SDGsクイズ
 - ②SDGsカードゲーム

ワークショップ | SDGsクイズ

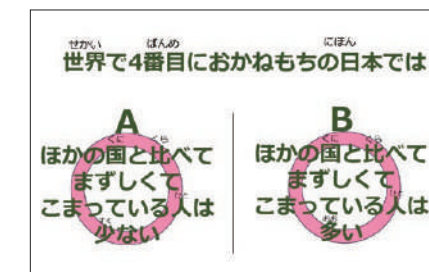
会場内にはSDGsに関するクイズ「こたえはどっち?」が貼られています。「地球にある水のなかで飲める水はどのくらい?」「『パートナーシップ』とはどんな意味?」などの17の質問について家族で話し合いながら、正解と思う方にシールを貼っていきました。正解の数だけ飴がもらえたよ。世界の様々な問題を知るきっかけとなりました。



家族で話し合いながら答えを決める



Aのシールの方が多いですが...



AもBもどちらも正解。え～!?

ワークショップ | SDGsカードゲーム

用意された51枚のカードが、SDGs17目標のどれに当てはまるかを考えます。「毎日、はをみがく」「工場見学にいつてみる」一体どの目標に当てはまるかな?最初に2家族1組で考えた後、4家族1組になって、各目標に3枚ずつになるように並べ替えていきます。話しあい悩みながら決めていくうちに、視点が違うといろんな考え方があること、17の目標は関連しあっていることに気づき始めました。



カードは51枚



他の家族とも話し合う



何度も貼り直す

第2回

海洋漂着物で アート作品を 作り、ごみ問題を 考えよう

まずは前回の活動を振り返って身近な行動がSDGsにつながっていること、1つの行動がいろんなSDGsとつながっていることを確認しました。次に海洋ごみ問題の現状を知り、アーティストであるしばたさん流の解決策「作品にすることでごみはごみではなくなる!」を体験するために、ワークショップをスタート!

しばたさんがビーチクリーンで集めたプラごみや漁師網、各家族が持ってきた家庭ごみを使って作品を作りました。海洋漂着物がアートに生まれ変わります。他の家族が作った作品に自分と違うものの見方・考え方を発見する参加者たち。しばたさんと坂口さんの対話の後、家族で「自分の好きなことを活かしてSDGsに取り組むなら?」について話し合いました。

第2回
身近な問題を考える
海洋ごみで作品を作ろう

- ▶ 2024年9月29日(日)
- ▶ 10:00~12:40
- ▶ 福岡市科学館 交流室1
- ▶ 内容
 - ①講話
 - ②ワークショップ
 - ③対談
 - ④家族会議



講話 | SDGsとごみのつながりを知る

講師: 吉村 友里 先生



吉村先生

地球の7割を占める海は生きものたちの命の源であり、多くの恵みを与えてくれます。そんな海が今、危機に瀕しています。海洋ごみが増え続け、生きものへの影響が深刻化。ビニル袋を食べてお腹いっぱいだと勘違いした魚が餓死したり、人間が捨てたストローが刺さったり。対策としてごみを食べる生きものの発見や、分解技術の研究も進んでいますが、ごみをごみでないものにするというのもひとつの取り組みです。



ワークショップ | 自分の好きな表現方法をみつけてほしい

講師: しばた みなみ 先生



しばた先生

この活動を始めたのはビーチクリーンに参加したのがきっかけでした。モノはごみとして生まれたわけではありません。見方を変えることで、もう一度使ったり命をふきこんだりできるのでは?と考えました。みなさんも今日お友達の作品を見た時に、視点を変えとこんなに変わるんだというのを感じたいと思います。私は図工が好きなので作品を介して思いを伝えています、それぞれ自分の好きな表現方法をみつけてほしいと思います。



しばた先生が集めた漂着物



アート作品に命をふきこむ



海洋漂着物から生まれたアート作品たち



対談 | しばたさん×坂口さん

坂口さんがインタビュアーになって、しばたさんに「活動を始めたきっかけ」や「今後の活動」についてお話を聞きました。参加者からも、「どんなごみが多く流れ着きますか?」や「びっくりした漂流物は何?」などの質問があがりました。



「ごみがなくなって作品がつかなくなる日がきてほしい」

第3回

九大の森を歩いて、生きもの のつながりや 豊かな暮らしを 考えよう

自然環境を守りながら、人間の豊かな暮らしのために環境開発をする。そんなことってできるのでしょうか?それをやり遂げたのが、当館館長、矢原徹一先生です。館長は、伊都の森の生きものをほぼそのまま残しながら、九州大学伊都キャンパスの建設も成功させました。その秘密を探るため、九大の森にいざ出発!

第3回
開発と保全の成功例を知る
森で生きものにふれよう

- ▶ 2024年10月14日(月・祝)
- ▶ 10:00~13:30
- ▶ 九州大学伊都キャンパス・九大の森
- ▶ 内容
 - ①講話
 - ②フィールドワーク
 - ③SDGs弁当を食べよう
 - ④ワークショップ



フィールドワーク | 九大の森探検

講師: 矢原 徹一 先生

館長を先頭に、九大の森の探検にでかけました。アスファルトの道路とは違い、森の中は積み重なった落ち葉と柔らかな土でふかふかです。森の中で、カエルや昆虫を見つけ、大はしゃぎの参加者たち。道中、「どうすれば森に住んでいる生きものの種類を減らさずに、九州大学伊都キャンパスを建設できたか」を、館長に教えてもらいました。実は館長、森を土ごとごとすり引越す方法を実践したのです。そうすることで、土の中のタネも微生物も、生態系をそのまま動かせるので、森の植物を100%残すことができたのです。



講話:九州大学伊都キャンパスでの開発と保全の説明



落ち葉の道はふかふか



植物も昆虫もなんでも知ってる館長



カエルもたくさんいたよ

昼食 | 作って食べようSDGs弁当



芋掘りで採った芋のツルも使ってフードロス削減



ばあば手作りのいちじくジャムでサンドイッチ



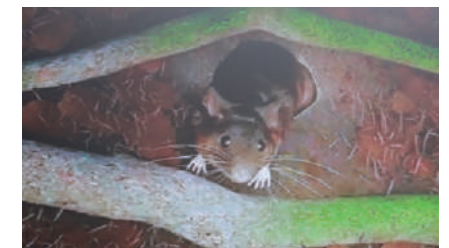
仕切りは使わずごみ削減



講話 | 「はこびや さんの四季」解説

講師: 矢原 徹一 先生

アカネズミ、ツチガエル、クロツラヘラサギ...などいろんな生きものの活動がつながって生態系が成立していることがわかります。



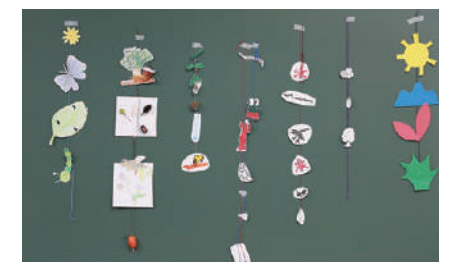
アカネズミ
出典:基本展示室SCシアター「はこびやさんの四季」より



ワークショップ | 生きものつながり モバイル作成

講師: 坂口 麻衣子 氏

森を探検して見つけた様々な生きもののがりを考えながらモバイルをつくりました。



家族の個性が表現された生きものモバイル

第4回

「食べ物」から
人々のつながり
を見つけ、思い
やりの気持ちを
感じよう

朝昼晩の3回の食事、3時のおやつのチョコレート。普段の「食事」の中には、SDGsがたくさん隠れています。例えばチョコの「生産地」、カカオはどこでつくられ、どうやって運ばれてきたのでしょうか？例えばチョコの「生産者」、カカオを育てているのはどんな人なのでしょう？普段はあまり意識しない「見えないうつなり」を考え、SDGsの考え方の根源である「思いやりの気持ち」を感じる回になりました。

第4回
世界の子どもの幸せを考える
チョコレートから考えよう

- ▶ 2024年10月27日(日)
- ▶ 10:00~12:40
- ▶ 福岡市科学館 交流室1
- ▶ 内容
 - ①講話
 - ②アンフェアトレードゲーム
 - ③チョコレート食べ比べ、豆腐のあんかけ試食
 - ④家族会議



講話 | SDGsの対立と両立

講師: 吉村 友里 先生

海洋プラスチックの問題が大きくなっていますが、プラスチックのおかげで生活が豊かになったことも事実です。前回の矢原館長のFWでは、SDGsの目標は常にごどこかで対立するが、両立する方法を考えることが必要だということを学びました。今回のテーマ「食べ物」では、食べる人、売る人、つくる人、つくる場所の関係を考えてみましょう。



ワークショップ | チョコレートのウラオモテ

講師: 竹内 太郎 先生



竹内先生

100円で簡単に買えるチョコレート。このチョコレートをつくっているのは、子どもかもしれません。世界の裏側、西アフリカでは、学校に行っているはずの時間帯に、カカオのタネを選別してお金をもらっている子どもたちがいます。本当は学校で勉強がしたいのに、お金を稼がないと生きていけないのです。これでは、チョコを売る会社の人とチョコを食べる私たちが嬉しくても、チョコをつくる人は幸せではありません。見えない人のつながりや、幸せを考えることがSDGs達成の糸口です。



アンフェアトレードゲームに挑戦中



たくさん働いたのになぜ対価が少ないの？



試食 | おりようりは、「こころのやりとり」。

講師: 竹内 太郎 先生

「豆腐のあんかけ」という何気ない料理ですが、竹内先生にとっては「大切な人に最後に作ってあげた」特別な料理です。実際に豆腐のあんかけを作ってもらい、みんなで試食しながら「心のやりとり」について学びました。お料理に限らず、何かを「与える・やる」ひとは、大切な時間をつかって「とる」ひとに提供しています。「とる」ことを当たり前思わず、ありがたいの感謝の気持ちを持つことが大事ですね。



おりようりを通して考える、感じる



おいしいね、ありがとう



家族会議 | 受け取ったときの気持ちを言葉にしてみよう

自分が家族から受け取っている(もらっている)こと、それに対しての想いや気持ちを絵や言葉にし、ハートのカードに書いて、渡しました。

次回からはいよいよ最終発表に向けての準備開始!まずは一人ひとりでアイデアを考え家族でまとめる

第5回

2030年の未来に
向けて、家族で
できることを考え
よう!

第6回

最終発表に向
けて悩み、楽しみ、
考える

いよいよ「2030年に向けて家族でできる取り組み」についての発表準備を進めます。SDGsにも「みんなのため／ひとりのため、いまのため／みらいのため」「生物、社会、経済といった側面から」など様々な捉え方があります。いろんな考え方で感想や意見を出し合って家族でできることを考えていきます。

- ▶ 第5回:2024年11月24日(日)
- ▶ 第6回:2024年12月1日(日)
- ▶ 10:00~12:40
- ▶ 福岡市科学館 交流室1
- ▶ 内容
 - ①話し合い・グループ会議
 - ②家族会議・最終発表準備



グループ会議 | 家族会議

最初は家族とは違うメンバーのグループに分かれて、自分の家族で考えてきた「SDGs企画会議シート」の内容を発表し「2030年、世界はどうなってる?!」についてグループ会議を行いました。段ボールの円卓に書き込んでアイデアを共有。家族以外から様々な気づきや学びを受けた後、家族に戻って再び「未来に向かってできること」を話し合います。途中で吉村先生と坂口さんへ経過報告と相談をしながら発表に向けて準備を進めました。



家族で考えてきた企画シート



グループ会議



円卓にアイデア出し

どの目標にするか、提案内容、プレゼン方法などを
家族で話し合い、データや作品を作る



KT家



KS家



KM家



SB家



TN家



MI家



MB家



RT家

SB家



SDGsのつながり

空気が汚れると→健康被害、環境破壊、住めないまち
 →空気がさらに汚れるという悪いループが起きます。
 2030年は空気がきれいになってほしいという思いから、2つのことをやってみました。

- ①ごみひろいボランティアに参加：ゴミは見えないところに落ちていて、自然にはなくならないことを学んだ。
 ②本『SDGsのきほん』をみんなにすすめた：SDGsは難しい、なんでもSDGsになるんだということを伝えた。また、本を参考にアレンジした「くもの巣チャート」を作成。自分がやることを真ん中に書き、どの目標にあてはまるか考えていくと、どんどんつながっていくことがわかります。「つながり」で考えるとたくさんの目標がよくなっていくので、今後はこの考え方をひろめていきます。

サポーター：梶原、赤羽



くもの巣チャートでつながりを確認



ごみひろいボランティアに参加したよ



発表の様子

感想：

この会議に参加してからは、ペットボトルを買ったときはちよっとう〜んという気分になるし、商品にエコマークが付いているか確認したり、図書館で借りるのもSDGsの本が多かったり。プラスチックごみを全部なくすのは難しいけど、いつも意識するようになったのが大きな変化だと思います。いつかたくさんの人と話すでっかい会議もやってみたいですね。

KT家

ゴミひろいをして
海ごみをなくしたい

第2回海洋ごみのワークショップで、海のいきものがごみを食べて苦しんでいることを知り、子どもたちの「ごみひろいをして海ごみをなくしたい」「ごみひろいロボットをつくりたい」という声から「海のごみひろい体験」と「身近なSDGs探し」を行うことにしました。

まずはごみ箱リユックを作成し、博多湾へ！海岸にはライターやペットボトルなどがたくさん落ちていてごみ問題を実感しました。また、電気自動車の仕組みやファストフード店でのストローの比較、曲がった野菜も美味しく食べられることなど、身近なSDGsについて親子で話すことができました。

子どもたちの印象に残りやすい体や手を実際に動かす体験を中心に、身近なSDGs探しやイベント参加などを継続的に続けていきたいです。

サポーター：藤井、前田



海岸にはプラスチックごみがいっぱい



発表の様子



ごみ箱リユックで拾ってきたよ

感想：

小学校低学年なりにSDGsで世界の問題を知ってほしい、反差別・反貧困・地球環境保護等の価値観を身につけてほしいとの思いで参加しました。正直、小学1、2年生には難しい内容でしたが、新しいアンテナを張るようになりました。今は「生きものを守りたい」などの気持ちなのですが、今後につながっていくことを期待しています。

TN家

過去は変えられないけど
未来は変えられる

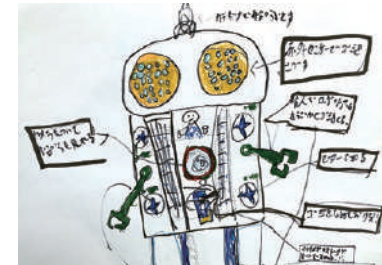
3人それぞれの思いや考えを発表します。

●世界には時給20円で毎日10時間働く子どもたちがいます。私は外国語に興味があるので将来貧しい国の子どもたちが働かずに勉強ができて夢をもって生きていけるようにサポートしていきたいです。

●2030年にはごみがなく海洋生物が守られる世界になってほしいので、僕はマイクロプラスチックを選別できるごみひろいロボットを考えました。また福岡市には無料でおいしい水が飲めるところが多いのでマイボトルを持参します。

●家族でSDGs映画会の手伝い、新聞紙エコバッグ販売、フェアトレードの説明などをするうちにSDGsを知らない人が多いことを知り、私たちの学びを伝えていく大切さを実感しました。みなさんへメッセージカードを作ったので、2025年も続けていきましょう。

サポーター：福寺、和田



ごみひろいロボットのアイデア



発表の様子



新聞紙エコバッグとメッセージカード

感想：

情報を調べるだけでなく経験したことで子どもたちの心に残ったと感じます。学生サポーターさんとの交流では、研究の話聞いて貧しい国に必要なものを考えたりできて子どもたちにとっていい刺激でした。今日は伝えたいことはしっかり発表できました。終わって寂しいですがSDGsはこれで終わりではなくこれからも続けていきます。

RT家

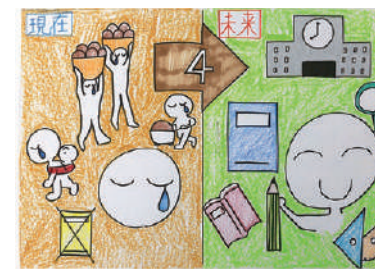
SDGsが
達成された世界って？

SDGsが達成された未来を紙芝居形式で発表します。

- ・目標4が達成されたら→貧しい国の子どもたちも働かずに学校で勉強し、なりたい職業になれる
- ・目標14が達成されたら→海の生きものたちがプラスチックを食べて死ぬことなく元気に暮らせる
- ・目標15が達成されたら→森が豊かになり地球温暖化も改善される
- ・目標16が達成されたら→誰もが努力した結果を公平に評価される

今回、様々なことを学んでつらい気持ちにもなりましたが、SDGsが達成された世界を考えると明るい気持ちになります。私たちにできるのは学んだことを生活で活かし学校などでも発表してみんなに知ってもらうこと。もっといい世界を目指して伝える機会をこれから探していきたいです。

サポーター：赤羽、梶原



SDGsが達成された未来を紙芝居で表現（SDGs目標4）



発表の様子



(SDGs目標14)

(SDGs目標15)

(SDGs目標16)

感想：

会議に参加してからは家族で海、山、地球温暖化や、日常のささいなこともSDGsだね、何かできるかなあと話そうになりました。SDGsを「～しなければいけない」「～してはいけない」のような義務感ではなく、「こうすればもっとよくなる」という前向きな気持ちで取り組めるようになったことがよかったです。

最終発表会の感想:

私は知識・学びとして調べることが多かったのですが、みなさんが日常に落とし込み、ここで感じた気持ちを他の家族にまで伝えて広がっていく力を感じました。

吉村先生

最終発表会の感想:

自分のことだけではなく、周りの大切な人のこと、地球のことを考えたんだなあと感じる発表でした。その温かい気持ちを持って大人になってくださいね。

竹内先生

最終発表会の感想:

ネガティブになりが
さんがポジティブに
象的でした。これか
ていく家族になって

ちなSDGsを、みな
に考えているのが印
らも福岡をひっぱっ
ください。

しばた先生

最終発表会の感想:

帰ってから「ハンス・ロスリング 洗濯機」
で検索してみてください。世界がもっとよ
くなるにはどうすればよいかを家族で考える
のにおすすめの動画です。

矢原館長

最終発表会の感想:

今は海外とネットでつながることができま
す。ここでみなさんが学んだ大きな財産を
世界に向かって発信するSDGsリーダーと
して頑張してほしいと強く思います。

西村先生

MI家

👑 SDGsグッドデザイン賞
👑 アパマン賞

わたしたちが考えたSDGs ～現代人の課題

現代人の課題として①環境問題(私たちの活動によってCO₂排出が増加し地球温暖化を加速させている)②栄養不足な食生活(加工食品中心で栄養バランスが崩れている)③教育機会の不足(子どもたちが自然や食材に触れる機会の減少)の3つが挙げられます。その解決策として私は「家庭菜園」を考えました。課題①には野菜などの運輸で排出されるCO₂の削減、緑化によるCO₂吸収、②には自家栽培の野菜は新鮮で高い栄養価をもつ、③には食育と自然学習の場になる、というトリプル効果が期待できます。簡単に美味しくたくさん野菜が食べられる料理として「野菜のポトフ」がおすすめです。料理だけでなく、日常生活の中で「SDGsな活動」を習慣にすることが大事だと思います。

サポーター：志水、伊藤

意識した項目： 2 3 4 13

KS家

👑 福岡市科学館賞
👑 MVF賞
👑 アパマン賞

絵本「ころうの旅」を つくりました。

今回学んだことや、家族での農業や畳作りなどの体験を通して「自然を大切にすること」が重要だと感じ、この考えを拡げていくために絵本を作ることにしました。シャチの「ころう」が動物や人に出会って自然について学んでいく物語です。家族みんなで絵やストーリーづくりを分担してつくりました。おりがみ恐竜が11匹隠れているので探してみてくださいね。読んでもらった友人や小学校のお友達からは「私も環境のことを調べたい」「協力すれば地球を救える」などの感想をいただき、たくさんの方が次につなごうと思ってくれたことが嬉しかったです。今後も学んだこと・考えたことを新しいページに追加して、新しい物語をつくっていきたいと思っています。

サポーター：伊藤、志水

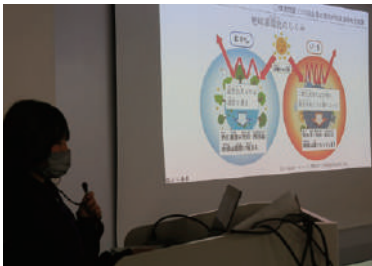
意識した項目： 13 14 15



野菜のポトフを作ってみた



発表の様子



絵入りのわかりやすい発表スライド

感想：

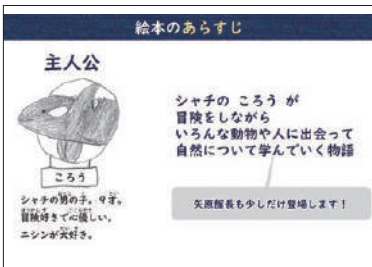
親子で協力しながら発表をまとめスライドを作るのは初めてだったのでよい経験になりました。娘が自分の意見をしっかり持っていて、スライドもこんなに作れるというのは大きな気づきでした。保護者同士で「今は子どもたちの方がSDGsのことを当たり前知ってるね」と話したりして、大人がもっと変わらなければと感じました。



家族で力をあわせてつくった絵本



発表の様子



絵本のあらすじ

感想：

絵本に入れたいアイデアがどんどん出てきてまとめるのは大変でしたが、学んだことを自分たちでまとめて、お友達に読んでもらって反響がかえてくるというのは子どもたちにとって貴重な経験になりました。これからイグサ農家さんや久留米餅などの体験をする予定なので日本の伝統文化とSDGsをつなげた物語を続けていきたいです。

MB家

👑 矢原館長賞
👑 明日はSDGs賞
👑 アパマン賞

～親子で楽しく～ プラなし生活

今回体験した海洋ごみアートづくりや、自分の仕事で受ける肌荒れ相談で、大気や水の汚染に問題意識を持ちました。そこで我が家では、人の健康は地球の健康が土台にあるという考えから「週末ゆるっとプラなし生活」をやることにしました。朝)プラなし買物、昼)みつろうラップづくり、夜)天然素材スポンジに変えて食器を洗う、の3つをやってみて、それぞれ長所短所があり、毎日取り入れるのは難しいと感じました。ただ、ひとりの意識、ひと家族の行動は小さくても、この考え方をSNSなどで発信することで大きく広がっていきます。2030年にはプラなし意識が高まり、買物にはマイ容器持参、お皿に載せた果物や野菜を猫口ポットが会計するような世界になっているといいなと思います。

サポーター：前田、藤井

意識した項目： 12 13 14



プラなし生活やってみた！



発表の様子



みつろうラップ

感想：

会議に参加してから、自販機の飲物に抵抗感が出たり、新聞や本でSDGsの情報をみつけたらお互いにシェアしたり、日々プラスチックを何か他のものに代えられないか考えたりするようになりました。親子ともにSDGs意識が上がりましたね。今日の発表の絵は何度も書き直して10時間くらいかかりました。とにかく一生懸命やりました！

KM家

👑 グッドストーリーテリング賞
👑 アパマン賞

潜入捜査版 くらしに隠されたたからもの

会議を通してSDGsをもっと知りたい、特に目標7と12に注目し、私たちは玄海エネルギーパークに捜査に出かけました。目標12:玄海エネルギーパークで自動で安全に走る車、リモートで操作できる無人の草刈り機、目標7:牛のファンから電気をつくっていることなどを学びました。そして、SDGsをもっと広めたいと思い、本を参考にしてワークショップで発表し、20人×4日間で80人に伝えることができました。80人でSDGsオリジナル目標も作成しました。SDGsはまだ大人も達成できていないからこそ、子どもと一緒に家族で達成していく目標です。2030年、40年、50年と社会に出ていくのは私(子ども)たちです。身近な人に伝えたり、自分にできることを探していってほしいです。

サポーター：和田、福寺

意識した項目： 7 12



SDGsワークショップで発表



発表の様子



SDGsオリジナル目標

感想：

今日の発表では時間配分なども考え、途中にクイズを入れてみんなが集中できるように工夫しました。講座では海洋ごみアートの回が特に印象に残っていて、本当に使えなくてゴミになっているのかをもう少し考えようと思いました。他の家族のようなオリジナル本をつくったり、周りに広めたりをこれからも続けていきたいです。

SDGs家族会議の審査項目は、これまで学んできた「SDGsの達成に向けて取り組む上で大切にしたいこと」を軸に構成しています。小さな一歩でも行動変容に踏み出そうとする家族を応援するものになればと思っています。

審査員

最優秀賞

「福岡市科学館賞」

8つの審査ポイントを総合し、最も評価が高かった提案

優秀賞

「館長賞」

「明日はSDGs賞」
● 実現性 ●
「これは確かに実現しそうだ」と納得できるか

「SDGsグッドデザイン賞」
● 共感性 ●
「なるほど!たしかにそうだ」「わたしもやってみたい!」とどのくらい共感できるか

「未来のファンタジスタ賞」
● 想像力 ●
「身近なものから世界を想像して」「自分ではない誰かのことを想像して」「まだ見たことがない世界や未来、社会を想像して」そのつながりを大切にしていると感じられるか

「SDGsイノベーター賞」
● 創造力 ●
自分たちらしさ(好きなことや得意なことなど)を活かして、独自の視点でクリエイティビティが発揮されているか

「小さな研究者賞」
● 探究心 ●
興味のある内容について、調査や実験、実践と分析など、テーマを深めるような取り組みがなされているか

「君はコペルニクス賞」
● ユニーク性 ●
プレゼンテーションにオリジナリティがあり、新しい発想や手法でのプレゼンテーションとなっているか

「グッドストーリーテリング賞」
● コミュニケーション力 ●
プレゼンテーションにおいて一方的な発表ではなく、聞く人の心が動くような工夫がされているか(話し方、手法など)

「MVF賞」(Most Valuable Family)
● 家族力 ●
提案内容、プレゼンテーションにおいて、それぞれを尊重して家族の中で会議(対話)を重ね、家族で協力する様子が見られるか

「アパマン賞」
● がんばる力 ●
がんばった全参加者へ

審査員

- 西村 俊彦 福岡市科学館顧問、SDGs家族会議審査委員長
- 矢原 徹一 福岡市科学館館長、九州大学大学院理学院理学研究院名誉教授
- 坂口 麻衣子 ワークショップユニットnina nino

- 吉村 友里 九州大学理学部研究員、九州オープンユニバーシティ研究員
- 竹内 太郎 九州オープンユニバーシティ学術研究員
- しばた みなみ アーティスト/描いてつくるヒト
- 前田 奈緒 九州大学 学生サポーター
- 和田 香里 九州大学 学生サポーター

※敬称略、順不動

梶原里樹

僕が小学生の頃はSDGsという言葉を目にしたことはなく、地球や自分ではない誰かのために何が出来るのかを真剣に考えた経験はなかったと思います。だからこそこの時期からそれが出来ているお子さんたちが羨ましいし、尊敬しています。親御さんはサポーターである私に優しく接してくださって心から感謝しています。皆さんのおかげで僕も成長できたと思っています。家族の絆を大切にこれからも歩んでいってほしいです!

赤羽萌野

発表では、何を伝えたいかご家庭でよく話し合って決めたことや、表現の仕方を工夫して何度も練習を重ねた努力がしっかり伝わってきました。その努力の先にある堂々とした発表の姿に感動しました。SDGsは難しいからわからないと諦めるのではなく、わからないことがあっても自分ごととして向き合って理解しようと努力し、できることを探して実践する参加者の皆さんの姿に私自身も良い刺激を受けました。

志水健一郎

答えは足元にあったんだ!自分よりずっと若い子どもたちのアイデアや実践に、自分たちでできる身近な取り組みこそが世の中を変えるパワーになるということを改めて教えてもらいました。そして、子どもたちを支える家族の姿に、明るい未来は自分たちで切り開いていけるんだと確信しました。「私にできるSDGsは自分と同じ考えの人を増やすことです!」。ひとりじゃできないことも、みんなになれば乗り越えていける。胸がアツくなりました!

伊藤詩

家族会議を通して、親子で理想の未来について話し合い、価値観を共有するという、とても貴重な時間にご一緒させていただきました。最終発表では、子どもたちの「自分たちが未来をつくる」という自覚を感じ、主体的に取り組む姿にとても感銘を受けました。より良い社会の実現のため、世界全体で手を取り合って進んでいくために必要なことを、この家族会議で学ばせていただいたと思います。ありがとうございました。

福寺航大

インプットとアウトプットにあふれたSDGs家族会議2024でした。作品づくりや野外学習、ゲームといった体験を通して、楽しさや喜び、やるせなさ、なんとかしなきゃという問題意識など家族の皆さんのいろんな気持ちを教えていただきました。共有いただいた気持ちをもとに何が出来るのか、どうすれば良くなるのかを一緒に考えたことが印象に残っています。サポーターとして参加させていただきありがとうございました。

前田奈緒

学生サポーターとしてSDGs家族会議に関わらせていただき、素敵なお家族とのご縁に恵まれ、環境問題に関する理解や意識の向上など、私自身も成長を実感することができる貴重な日々を送らせていただきました。最終発表に向けてアイデアが形になっていく過程も含め、全8家族の“家族の絆”に非常に感動しました。最後になりましたが、SDGs家族会議に関わってくださった方々に改めてお礼申し上げます。

和田香里

3ヶ月間ありがとうございました。科学館での活動だけでなく、暮らしの中に少しずつSDGsを取り入れているみなさんの前向きな姿にたくさん刺激を受けました。また、どの家族も各々の得意なことや興味関心を尊重しており、家族が一つのチームとして協力しあっている様子に心温まりました。最終発表での「SDGsはまだ大人も達成したことがない目標」という言葉にもあった通り、歳を重ねても引き続き学びと実践を続けていきたいです。

藤井萌衣

SDGs家族会議お疲れ様でした。子供達がSDGsについて真剣に考える姿に感動し、家族会議では家族のパワーと愛を感じました。最終発表では家族それぞれの個性が発揮されており、皆さんの想像力に驚かされてばかりで、たくさん刺激をいただきました。皆さんと出会えたことが私にとってとても大きな財産となりました。ありがとうございました。今後私たちがきっかけとなり、SDGsをもっともっと広めていきましょう。

※順不動

西村 俊彦 審査委員長



参加家族の皆さん、関係者の皆さん、ご苦労様でした。今年は8家族の参加。家族毎に自分の家族のSDGsテーマを決め、家族で探求し、思いを込めた素晴らしい発表を披露してくれました。発表会までの3ヶ月間、ワークショップやフィールドワーク等の体験をしながら家族が中心となり話し合いを重ねました。発表内容は各家族の個性とアイデアにあふれ、親子で分担し、紙芝居や模型、スライドなどを駆使し多様で創造性に溢れた全員参加型の発表でした。全家族に共通して「2030年の地球を良くしたい」という思いが満ち満ちていました。子どもたちの伸びしろと親子の絆の深まりに感動しました。だからこそ、難しかったワークショップを上手に進行し、モチベーション維持と安全確保などに配慮したファシリテーター、サイエンスコミュニケーター、学生サポーターと科学館担当者のチームワークに感謝しながら見ていました。その陰に大学生、院生、保護者たちの思いが明確に見えました。まさしく家族会議であり地域コミュニティー会議の場でした。SDGs家族会議を通じて学び、気づく機会を得たのは、子ども達だけでなく家族全員と我々だったと思います。

坂口 麻衣子 チーフファシリテーター



今年は対象学年の幅が広がり、より多様な年代が混ざり合った家族会議となりました。また、SDGsに対する関心も昨年以上に高まってきているなど感じながらのスタートでした。回を重ねてさまざまな視点を得るごとに、家族の中でどのように工夫をすれば伝えられるか、一緒に考えられるかと、親御さん、サポーターさんがさまざまな工夫をしているのが印象的でした。試行錯誤をしながら、最後の発表では、子どもの視点やアイデア、大人の知恵や知識を結集して発表としても楽しいものばかりでした！SDGsで掲げられた目標は、大人だけのものでもなければ、未来を担う子どもだけのものでもなくみんなのもの。生きてきた時代や環境が違う人同士で、補い合ったり、助け合ったりしながら一步一步進んでいくための術を学び合える小さな単位として「家族」というのは興味深いあと、今年もまたプログラムの反省とともに振り返っています。

吉村 友里 講師リーダー



9月にこの会議がスタートした当初、SDGsという言葉や、それをテーマにしたカードゲームに戸惑いを見せていた皆さん。それが回を重ねるごとに、SDGsを自分たちの得意なことや家族の日常に結びつけ、「知る側」から「行動を促す側」へと変わっていく姿に心から感動しました。家族会議という形式だからこそ、一人ひとりが対等に意見を出し合い、家庭では見えない家族の新たな一面や強みに気づく場になったのではないのでしょうか。そうした気づきが新たな家族の強みとなり、未来への力になることを願っています。私自身、このような企画に携わるのは初めてで、力不足を感じる場面もありましたが、皆さんの熱意に引っ張られる形で多くの刺激を受け、成長させていただきました。小学生の子どもを持つ親としても、対等な立場で多くを学びました。この家族会議で生まれたエネルギーが、参加家族だけでなく周りの人々や社会全体、さらには世界へと広がっていくことを心から願っています。

.....

竹内太郎 講師

SDGs家族会議に参加していただき、ありがとうございました。わたくしのお話は、端的に言えば「利他」の心を養うこと、それをお伝えしたいという意図がありました。チョコレートを通して、見知らぬ遠くの国の人びとのくらしを想像すること、お味噌汁や家庭料理を通して、大切な身近な誰かを慈しむこと。その根本には「利他」の心があり、それは人間だけがもつ、最も尊い感情のひとつです。お料理をする人は「選び取る人」でもあります。それは自分の「いのち」と愛する人の「いのち」に責任が持てる人です。さらに現代の人びとは、読む本や見る景色、出会う人など常に何かを選び取っています。その中で、違和感やもやもやと出会うこともあるでしょう。そんな時は、すぐに目を背けず、否定せず「なぜ？」と自分の頭で考えてみてください。世界は答えの出ない問いに溢れています。それを色々な角度から考えて、他の誰かと対話することを楽しめる人になってほしいなと願っています。



SDGs家族会議 in FUKUOKA事務局

- 西村 俊彦

福岡市科学館 顧問、
スタンフォード大学医学部麻酔科・創薬医療機器開発研究所 所長
- 吉村 友里

九州大学理学部研究員、九州オープンユニバーシティ研究員
- 坂口 麻衣子

ワークショップユニットnina nino
- 上田 恭子

福岡市科学館 総括責任者
- 高山 裕明

福岡市科学館 事業推進スーパーバイザー
- 西澤 息吹

福岡市科学館 サイエンスコミュニケーター
- 崎山 祥子

福岡市科学館 広報

※敬称略、順不同

過去3回のSDGs家族会議(2021年、2022年、2023年)の報告は
ホームページで公開しています。こちらの概要ページをご覧ください。➡





福岡市科学館
FUKUOKA CITY SCIENCE MUSEUM

